

第3学期始業式 式辞要旨 H30.1.9

新年明けましておめでとうございます。

今年は、天候に恵まれた穏やかな正月だった。

それぞれの家庭で、家族や親族との大切な時間を過ごしたことと思う。久しぶりに会ったお祖父さんやお祖母さん、そして叔父さんや叔母さん、従兄弟等との絆を深めたことだろう。

我が家では、両親と我々夫婦の4人暮らしのところに、東京から弟の家族や娘や息子たちが帰省して13人にもなり、寝る場所の確保、食事、風呂の順番待ちは大変だったが、久しぶりに集合するのは、やはり嬉しいものだった。今は、嵐が過ぎ去ったかの如く元の4人に戻ってしまい寂しい限りだ。

お正月は昔から、一年の中で最大の節目になっていた。それだけ特別な日であったように思う。自宅の玄関にはお飾りをつけるのが当たり前だったが、この頃はつけない家も増えたようだ。かつては、ほとんどの自家用車にお飾りがついていたのに、今は見かけることがなくなってしまった。また、初詣に行く人も減ったようで、なんだか寂しい気がする。やはり正月は特別であってほしいと願うばかりだ。

そこで、今日は節目という話をする。

一年の節目としてはお正月が一番大きいだろう。昔から、初日の出に誓いを立てたり、初詣に出かけて一年の無事を祈るなどしてきた。

日本には有り難いことに四季があって、それが多彩で変化に富んだ日本文化を生んだと言えるのだが、その四季も節目の一つだろう。

高校生にとっては、今日のような始業式や終業式も節目だし、学園祭や修学旅行、そして定期考査や長期休業も節目だ。3年間の高校生活では、入学式や卒業式は重要な節目だ。節目があるから、それに向けて様々な準備ができるし努力もできる。節目となる行事が存在しなければ、目標の立てようがないし、さぞかし面白くない3年間だろう。

人生にも節目がある。小学生になる節目、中学生になる節目、高校生になる節目、就職という節目、結婚、出産という節目、そして子供が大きくなってくれば、またそれらの節目を繰り返していくことになる。そうやって人はそれぞれの場所で歴史を紡いできたわけだ。

この人生の節目は、しばしば竹の節に例えられる。節があるお陰で、竹は強さを保っている。節がなければあれほど上に伸びられるわけがない。人生も同じようなもので、

それぞれの節目がしっかりしたものになっていけば、いくら強い力で引っ張られても元に戻れる強くてしなやかな人間に育つような気がしている。

そういう意味では、お正月という節目はとても大切だ。一年の誓いをここで立てられないようでは、大切な節が出来上がらず、しっかりと上に伸びていけないだろう。節の無い竹を想像してほしい。自立することさえできない姿、分かりやすく言うと、枯れて倒れそうな大きなススキのような姿が想像できるだろう。

もし、今年一年をどう過ごすかについて目標も立てず、誓いもしていないというのなら、今からでも遅くないから、何らかの目標を持ってほしい。それが自分の人生の節目になって立派で丈夫でしなやかな人生に繋がるのではないだろうか。

いよいよ3年生の諸君は卒業が近づいてきた。最後まで先生方や周りの友人たちに誠実な対応をしてほしい。卒業後は、それぞれが違う道に進むことになる。いつも言っているように、これからの世の中は、自分で課題を見つけ出せる感性が必要であり、課題に気がついたらそれを解決するためにどうしたらいいかを自ら考えて実際に行動できる事が大切になる。その際に、考え方のベースになるのが近江商人の「三方良し」の教えだ。「売り手良し」「買い手良し」「世間良し」のうち、どうやったら「世間よし」に結びつくのかを考えていけばいい答えが導き出せるだろう。「売り手良し」すなわち自分だけが良いとか、「買い手良し」すなわち関係する人だけが良いのではなく、どうすることが社会にとってプラスなのかを考えてもらいたい。

1・2年生諸君。多くの人が就職や進学に向けて、3年生になってから本気になろうと考えているのかもしれないが、勝負はもうすでに始まっている。就職で言うならば、人気企業に就職したければ、まずは校内で勝ち抜かねばならない。校内で勝ち抜いたら、今度は他校生徒に勝たねばならない。「先んずれば制す」という言葉がある。一日でも早く取りかかって先に進んでいれば有利なのは間違いない。この3学期を良い節目にしてほしい。

3学期は検定が目白押しである。商業高校に来たからには、最低でも一つは1級を取ってほしい。何も1級を持たずに卒業することがないよう奮起してもらいたい。

それでは3学期がそれぞれにとって充実した日々になることを期待して式辞とする。